

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：32301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K13522

研究課題名（和文）20世紀前半アジア太平洋地域における赤十字人道支援と保健衛生制度の形成

研究課題名（英文）Red Cross Humanitarianism and the Creation of International Public Health Order in the Asia Pacific in the Early Twentieth Century

研究代表者

牧田 義也 (Makita, Yoshiya)

上武大学・ビジネス情報学部・講師

研究者番号：90727778

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、20世紀前半のアジア太平洋地域における保健衛生制度の形成過程に対し、日本とアメリカ合衆国の人道支援事業が及ぼした影響を、日米両国の赤十字社の活動に焦点を当てて考察した。20世紀初頭に同地域への進出を加速させた日米の赤十字社は、両国の植民地を中心に保健衛生事業を積極的に展開した。本研究はアジア太平洋地域での日米赤十字社の活動に注目することで、ヨーロッパ諸国の戦時事業を中心に叙述されてきた従来の赤十字運動史を刷新し、保健衛生分野において人道支援が植民地統治と結合していく過程を、トランスナショナルヒストリーの視点で包括的に分析した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

20世紀前半の国際赤十字運動に関する先行研究は、第一次世界大戦中の西部戦線における従軍救護活動や、大戦後の東欧諸国における復興事業等、ヨーロッパにおける同社の活動に分析を集中させてきた。これに対して、本研究はアジア太平洋地域における同社の医療・保健事業の重要性に注目することで、ハワイ・フィリピン・中国等の各地に設立された支部組織のネットワークを通じて、アメリカ赤十字社が域内各国で保健衛生制度の平準化を促進したことを論証した。

研究成果の概要（英文）：This paper explores the geopolitics of humanitarianism in the interwar period through an analysis of public health initiatives implemented in the Asia Pacific. The American and Japanese Red Cross societies initiated healthcare campaigns in Asia, promoting the standardization of public health measures in their colonial territories. By focusing on the transnational circulation of humanitarian ideals, practice, and institution in Asia, this essay illustrates an ideological metamorphosis of Red Cross humanitarianism in the early twentieth century.

研究分野：人文学

キーワード：アメリカ史 グローバル・ヒストリー 国際赤十字運動 人道主義の歴史

1. 研究開始当初の背景

人道主義をめぐる従来の歴史叙述は、概して欧米諸国を中心とする大西洋世界に照準を合わせてきた。20世紀前半の国際赤十字運動に関する従来の諸研究も、Irwin (2013)等、ヨーロッパ地域の動向に焦点を当て、赤十字国際委員会を中心とする各国赤十字社の戦時救護事業を主たる分析対象としてきた。ただし、20世紀前半の国際赤十字運動は、日米両国の赤十字社の急成長を背景として、地政学的な変動を経験していた。日本赤十字社(以下、日赤)は1877年に創設された博愛社を前身とし、1886年に日本政府がジュネーブ条約加入したことで、翌年から現在の名称に変更された。日赤は各府県知事を支部長とする全国的な組織網を整備し、東京の本社を頂点とする中央集権的な指令・動員体制を構築した。日赤の会員数は1905年に100万人を超え、第一次世界大戦が勃発した1914年には169万人の会員を擁する当時世界最大の赤十字組織へと成長した。これに対して、1881年に発足したアメリカ赤十字社(以下、米赤)は、第一次世界大戦中に会員数を急増させた。米赤の会員数は、1917年の米国参戦後11月には638万人にのぼり、大戦終結前の1918年6月には2039万人に達した。大戦後、米赤の会員数は一時減少したが、同社は1920年代を通じて日赤を抜いて最大の赤十字組織であり続けた。20世紀前半に圧倒的な会員数・財政規模を誇る巨大赤十字組織が北太平洋の両岸に出現したことは、国際赤十字運動を支える人口動態上の基盤が、欧州域外へと地理的に移行したことを意味した。本研究は、国際赤十字運動の中でもアジア太平洋地域に焦点を当て、同地域における人道主義の思想と実践が、戦争・帝国支配・植民地統治と連動しながら、20世紀の人道支援事業の国際的趨勢に影響を及ぼした様相を明らかにすることを企図した。

2. 研究の目的

本研究は、20世紀前半のアジア太平洋地域における保健衛生制度の形成過程に対して、日本とアメリカ合衆国の人道支援事業が及ぼした影響を、日米両国の赤十字社の活動に焦点を当てて考察することを目的とする。Hutchinson (1996)が指摘するように、日赤は日露戦争を契機として財政規模・社員数を飛躍的に増大させ、東アジアにおける中心的な人道支援機関となった。一方、アメリカ赤十字社は第一次世界大戦期に組織を拡大し、1920年代には太平洋地域の人道支援事業に積極的に関与した。こうして20世紀前半に台頭した日米の赤十字社は、両国の植民地をはじめとして各地に海外支部・委員部を設置し、人道支援の一環として、アジア太平洋地域における保健衛生事業を推進した。さらに、赤十字平時事業の国際機関として設立された赤十字社連盟は、1922年以降アジア太平洋を赤十字保健事業の重点地域として位置づけた。同連盟が主催した東洋赤十字会議では、日米の赤十字社が主導権をめぐって競合・対立しつつ、各国赤十字社と連携して域内各地の保健衛生制度の平準化を促進した。本研究は、保健衛生をめぐるこうした競合・対立・連携の過程を、日米の赤十字社に焦点を当てて複眼的に分析し、20世紀前半のアジア太平洋地域における医療・衛生ネットワークを多角的に解き明かすことを目指した。

3. 研究の方法

本研究はトランスナショナルヒストリーの分析視角から、アジア太平洋地域における赤十字保健衛生事業の展開を三つの局面に分節化して考察した。当該時期のアジア太平洋地域における日米赤十字社の保健衛生事業は、日本と合衆国で蓄積された近代西洋医学の知識と技術を、両国の植民地に移植する試みであった。本研究はまずこうした保健衛生制度の伝播(transmission)の様態を分析した。本研究は次に、各地の地方勢力が日米の赤十字社間の対立を利用して、保健衛生事業を自らの権益確保や自治・独立の達成のために転用(appropriation)していく様相を分析した。さらに、こうして日米の植民地で制度化された赤十字保健衛生事業は、東洋赤十字会議を通じて域内各国へと再伝播(retransmission)していった。本研究は、このように国際機構を媒介とした赤十字運動のネットワークを通じて、アジア太平洋地域における保健衛生制度が平準化していく過程を考察した。以上のように、本研究は伝播・転用・再伝播という三つの局面に着目して、アジア太平洋地域における保健衛生制度の国際連関を総合的に分析した。

4. 研究成果

本研究の成果は、以下三点にまとめられる。

(1) 日米両国の勢力圏拡張と連動した赤十字海外事業の拡大

牧田(2019)は、20世紀転換期、アジア太平洋地域における赤十字人道事業が、日米両国の勢力圏拡大と植民地統治に連動しながら展開したことを明らかにした。日露戦争期、中国東北地方で衛生事業に従事した日赤は、戦後同地の事業を関東州委員部、満州委員部として制度化した。台湾では1896年以降支部組織が整備され、樺太にも1910年委員部が設置された。朝鮮半島では大韓国赤十字社官制及規則が1909年に廃止され、日赤朝鮮本部が指揮監督を担当した。さらに漢口、上海、天津、ウラジオストク、ハワイ、サンフランシスコ、ロサンゼルス等、帝国域外各地に特別委員部が設置され、日赤の海外事業は北太平洋全域に及んだ。一方で米赤は、米西戦

争期に陸軍看護婦部隊や陸軍省島嶼局の医療・看護事業と連動しながら、キューバ、プエルトリコ、パナマ運河地帯等、カリブ海地域での活動に加えて、ハワイ、グアム、フィリピン群島を中心にアジア太平洋地域でも活動を展開した。第一次世界大戦中には米赤本部に島嶼外務課が設立され、戦時下のアジア太平洋域内各地で同課が設立した支部・分所は、戦後の米赤海外事業の拠点となった。

(2) 人道主義と人権理念の歴史的構築過程

人道主義(**humanitarianism**)と人権(**human rights**)は、西洋自然権思想を源流とする近代的「人間」(**humanity**)概念を共通の出発点としつつ、異なる理念として歴史的発展を遂げた。古典的な人権理念が「人間」の同一性に依拠して諸個人の平等な権利保障を要求したのに対して、人道主義は同様の普遍的人間観を共有しながらも、**Fassin (2012)**が「同情の非対称な関係性」と呼ぶ、支援者と被支援者の原理的に非対称な権力関係を内包したのである。牧田(**2020**)は、19世紀を通じて思想・実践両面において異なる領域で独自の展開をみた人道主義と人権理念が、20世紀前半の二度の世界大戦を経る過程で実践的領域において接近・重複し、さらに20世紀後半には、冷戦体制下の「第三世界」における脱植民地化と開発を背景として、人道主義と人権理念は実践面での収斂化が進行した歴史的軌跡を描き出した。

(3) 赤十字保健衛生事業と植民地統治の接合

アジア太平洋地域における日米の赤十字事業は、人道支援をめぐる政治的対立と競合を、植民地状況下で顕在化させた。日米両国の植民地・勢力圏に沿って拡張された日米赤十字社の人道事業は、赤十字国際委員会の指導下で欧州諸国を中心に構築されてきた、一国一社の単一(**unity**)原則に基づく赤十字事業の国民国家モデルから逸脱した。牧田(**2022a**)が明らかにしたように、第一次世界大戦期のハワイでは、日系移民を動員した日米双方の赤十字事業が重複した。また戦間期の中国では中国紅十字会と、同会の教師役を自任した米赤中国中央委員会が指導権を争った。20世紀前半のアジア太平洋地域では、このように赤十字人道事業が国境を越えて重層的・複合的に展開した結果、人道支援の正当性をめぐって各地で多様な集団が政治的に競合した。牧田(**2022b**)が示したように、戦間期のフィリピンでは米赤支部が、人道支援を通じて植民地の「文明化」を促進し、「より高次の文明へと向かう前進運動」を牽引すると主張した一方で、下院議員ルポ・パイテンを中心とするフィリピン人グループは、民族自決要求の国際的高揚を背景として、フィリピン人が「自らの手によって管理・運営」するフィリピン赤十字社の創設を訴えた。このように植民地状況下の赤十字事業は、統治者によって謂わば<上から>付与される恩恵的支援の論理と、被治者によって<下から>訴えられる権利要求の論理が競合・衝突する場となったのである。

<引用文献>

Fassin, Didier. *Humanitarian Reason: A Moral History of the Present*, trans. Rachel Gomme. Berkeley: University of California Press, 2012.

Hutchinson, John F. *Champions of Charity: War and the Rise of the Red Cross*. Boulder: Westview Press, 1996.

Irwin, Julia F. *Making the World Safe: The American Red Cross and a Nation's Humanitarian Awakening*. New York: Oxford University Press, 2013.

牧田義也「人道・帝国・植民地：第一次世界大戦期のアジア太平洋地域における国際赤十字運動」『人道研究ジャーナル』8巻、2019年：50-60頁。

牧田義也「人道と人権の歴史学：歴史的視座の課題と展望」『歴史評論』844号、2020年：5-15頁。

牧田義也「人道の地政学：ハワイにおける赤十字事業と人道主義をめぐる法文化の変容」石井紀子・今野裕子編『「法-文化圏」とアメリカ：20世紀トランスナショナル・ヒストリーの新視角』上智大学出版会、2022年(a)、25-58頁。

牧田義也「植民地期フィリピンにおける保健衛生事業と赤十字人道主義」『アメリカ研究』56巻、2022年(b)、69-91頁。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 牧田義也	4. 巻 56
2. 論文標題 植民地期フィリピンにおける保健衛生事業と赤十字人道主義	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アメリカ研究	6. 最初と最後の頁 69-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11380/americanreview.56.0_69	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧田義也	4. 巻 844
2. 論文標題 人道と人権：歴史的視座の課題と展望	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 5-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧田義也	4. 巻 79
2. 論文標題 歴史・記憶・記録：歴史実践と路上のアクチュアリティ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 148-163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14992/00017943	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧田義也	4. 巻 8
2. 論文標題 人道・帝国・植民地：第一次世界大戦期のアジア太平洋地域における国際赤十字運動	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人道研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 50-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 1件／うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Yoshiya Makita
2. 発表標題 The Past in the Present: Cultural Heritages and Community Rebuilding in Contemporary Japan
3. 学会等名 Japanology in New Era." An international e-conference hosted by Department of Japan Studies, University of Dhaka (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 牧田義也
2. 発表標題 Transcultural Entanglements in the Pacific World: War, Memory, and the Geopolitics of Humanitarianism
3. 学会等名 日本アメリカ学会第53回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshiya Makita
2. 発表標題 At the Crossroads of the Past and Present: History and Memory in Urban Landscapes of Osaka
3. 学会等名 10th Conference of Urban Space and Social Life (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshiya Makita
2. 発表標題 The American Red Cross and the Transpacific Origins of the U.S. Public Health System
3. 学会等名 Annual Meeting of the American Studies Association
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 牧田義也
2. 発表標題 歴史・記憶・記録：歴史学と路上のアクチュアリティ
3. 学会等名 日本アメリカ史学会第15回年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshiya Makita
2. 発表標題 Geopolitics of Humanitarianism: Colonialism, Public Health, and the Red Cross Movement in Interwar Asia
3. 学会等名 10th International Convention of Asian Scholars (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 牧田義也
2. 発表標題 第一次世界大戦後の国際人道主義運動とアメリカ赤十字社
3. 学会等名 上智大学史学会第67回大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 石井紀子・今野裕子編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 上智大学出版	5. 総ページ数 250
3. 書名 「法-文化圏」とアメリカ：20世紀トランスナショナル・ヒストリーの新視角	

1. 著者名 歴史科学協議会	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 232
3. 書名 知っておきたい歴史の新常識	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------